

大牟田市立天領小学校

1 本校のESDの特徴

本校では、学校教育目標「共に未来を築く、心豊かで、かしこくたくましい子どもの育成」の実現に向け、大きく二つの柱を立て、ESDを推進している。

一つは、体育科の研究を長年続けてきたことをいかして、体育科、生活科・総合的な学習の時間、道徳等を中心に、人々・社会とかかわる課題解決的な活動を重視し、「オリンピック・パラリンピック」を通じたESDを展開している。

さらに、大牟田市教育委員会と東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターとの海洋教育推進協定の締結を受け、本年度より「天領小学校・みなと小学校・天の原小学校の3校が連携した海洋教育」を通じたESDを展開している。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

◇オリンピック・パラリンピックムーブメント推進を以下の点で展開する。

- オリンピック・パラリンピックの歴史や精神について学ぶ
- 教科学習指導におけるオリンピック・パラリンピックを生かした教材で学ぶ
- 競技者とのふれあいを通じてその精神を学ぶ

そのために、総合的な学習の時間を中心に、体育科、道徳、特別活動との関連を図る全体計画を策定している。

また、海洋教育の概念「海に親しみ、海を知り・海を守り・海を利用する」の学習を段階的・組織的に展開するために、3校の3～6年生が共通して取り組む年間活動計画を立案した。

平成30年度		海洋教育年間指導計画												大牟田市立天領小学校		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
天領	3年	海に親しむ	海洋	三池港の観察(5) 干潟の事前学習会、干潟観察会(7)				各自の課題の解決(5)		調べたことの発表(5)						
			関連	※国語、社会、理科		※社会		※理科		※社会		※社会	※国語			
			行事			◆干潟観察会				◆美化活動			◆学習発表会			
	4年	海を知る	海洋					干潟の歴史を学び課題を設定する		干拓に込められた先人の思いと海の関係を探る(15)		調べたことの発表(5)				
			関連					※社会、理科	※社会	※社会	※社会		※社会、理科			
			行事			◆社会科見学				◆美化活動			◆学習発表会			
	5年	海を守る	海洋	諏訪川と有明海の関連を調べる(10)				諏訪川・有明海の汽水域の環境・生物を調べる、発信する(15)		川の環境保全が海の豊かさにつながるが分り、海を守る活動へつなげる						
			関連	※国語、社会	※社会	※理科	※社会、理科	※理科	※理科	※国語、理科						
			行事							◆美化活動			◆学習発表会			
	6年	海の未来を考える	海洋		3校交流会への準備(5)			三池港を陸と海上から観察・調査をし、団琢磨の思考に学び、100年先の大牟田市の海を考える(20)		先人の考えに学ぶ、海の未来への考察		調べたことの発表(5)				
			関連					※国語、理科	※国語、理科	※国語、理科		※国語、理科	※国語、理科			
			行事			3校交流会(5)		◆三池港クールーシング	3校TV会議	◆美化活動		◆合同フォーラム	◆学習発表会			

合同・共同学習 → ※3校交流会(6年)、クルージング(4年)、海の生き物調べ(3年)、学習交流会(テレビ会議)(6年)、合同フォーラム(5・6年)

3 特徴的な活動事例

【特別活動 オリ・パラ「パラリンピアンと交流しよう!」】

ロンドンパラリンピックのゴールボール競技、金メダリストの浦田理恵選手を招聘し、スポーツの素晴らしさや困難に打ち勝つことの大切さについての講話とゴールボール体験を通して、チー



ムスポーツの意義や価値、努力することの大切さ、パラリンピック選手のプレーのすごさを学ぶ学習を行った。

当日金メダルを持参され、児童は本物の金メダルに大きな感動を味わうことができた。これに関連して、3学年道徳において、オリンピック金メダリストの高橋尚子選手を題材として取り上げ、他人と比較するのではなく自分の頑張りに目を向けると、自分自身の力やよさ・好きなこと等を前向きに頑張りが続けることができるということを学び、深く自らのこととしてとらえることができた。

【第5学年・海洋教育「つながろう・つなげよう！ 私たちと諏訪川」】

「海を守る」をテーマにする。「守る」ためには「大切に思う」ことが必要になる。そこで、校区を流れながらも、なじみの薄い諏訪川でカヌー体験や水源から汽水域の三池港までフィールドワークを行い、水質検査を実施した。このように、直接体験を通して諏訪川に親しむ活動を取り入れた。そして、環境に優しいゲストティチャーの助言や水質検査の結果から諏訪川の環境をとらえ、ポスターやリーフレットをもとに有明海を守る活動へ広げた。ここでも「直接体験・調べたことの再構築・発信」の単元構成が子どもたちの活動への意欲につながった。



【第6学年・海洋教育「100年先の大牟田の未来を考える」】

「海を利用する」をテーマに、4・5年生の学習を踏まえ、「100年先の大牟田の未来を考える」学習活動を展開した。国土交通省九州地方整備局 博多港湾空港整備事務所出前授業や三池港クルーズ学習を通して、海上から現在も稼働する世界文化遺産の三池港や周辺の地形を見学した。



その後、現在の大牟田市の事業計画や、全国の海洋の利用状況を調べ、100年先の大牟田市の海を利用した町おこしを考えた。

そして、協力校とのテレビ会議や九州地区5校海洋教育パイオニアスクール子どもフォーラム等の交流を通して、学びを深めることができたと考える。



4 本年度の成果と課題（海洋教育の面から）

○成果

- ・3学年から系統立てて学習活動を仕組んだ。また、総合的な時間の学習を要として、各学年とも図工や国語、社会、理科の各教科と関連して指導計画を作成した。さらに、協力校との干潟観察や有明海クルージング、TV会議など、互いに交流する場を設けた。子ども達は直接体験を通して、有明海をより身近に感じるようになり、学びに必然性が出てきた。

○課題

- ・年間指導計画を作成していく上で、今年度のストーリーマップやESDカレンダーを利用し、各教科との関連を明確化・焦点化し作成していくことや、各学年の学習内容と系統性、本校の特色化等、さらに検討を重ねる必要がある。